

日本マス・コミュニケーション学会第35期第11回研究会（メディア文化研究部会主催）

「ポスト〈カワイイ〉時代のメディア文化を考える」のご案内

日時：2017年2月17日(金)15:30~19:00

場所：大阪市立大学梅田サテライト

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-600（大阪駅前第2ビル6階）

文化交流センター小セミナー室

<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access#umeda>

報告者：西原麻里（愛知学泉大学）

永田夏来（兵庫教育大学）

討論者：高馬京子（明治大学）

司会：吉光正絵（長崎県立大学）

企画の意図：

本研究会では、いまなお多様化と洗練化を続ける〈カワイイ〉メディア文化について検討する。現在、〈カワイイ〉という言葉は、辞書的な意味や用法を離れて多様な文脈や領域で使われており、日本特有のメディア文化を象徴する言葉ともなっている。〈カワイイ〉は、「美しい」や「カッコイイ」とは異なり、論理的整合性や完璧さよりも感情移入できる親近感や即時的コミュニケーションのきっかけを創り出すインパクトを優先する感性である。そのため、メディアの普及により消費やコミュニケーションのサイクルの高速化と簡便化が進む現代人のライフスタイルとの相性が良い。こうした点が〈カワイイ〉という言葉及び感性が一般化する一因となっていると考えられる。一方で、こうした〈カワイイ〉の拡がりには、女性たちの文化的・社会的活動範囲の拡大とも結びついており、女性たちが自分たち向けに世界を読み替える戦略の総称ともいえる。〈カワイイ〉は一見すると古典的な女らしさを反映しているように見えるが、実は、伝統的な規範の圧迫から抜け出して自分らしく生きたいと願う女性たちの希望の表れでもある。現代の女性たちは、自分なりの解釈でより自由に〈カワイイ〉を楽しんでいるのである。具体的には、2017年3月刊行予定の吉光正絵・池田太臣・西原麻里編著『ポスト〈カワイイ〉の文化社会学』（ミネルヴァ書房）の著者らの報告から、ポスト〈カワイイ〉時代のメディア文化の行方を探る。

西原麻里の報告では、日本の女性文化における理想像の一つである「プリンセス」について、雑誌メディアの言説を考察する。現代の女性たちは、プリンセスという存在にいったい何を託しているのか。雑誌言説から、世代によって異なる女性たちの複雑な生き方のあり様を読みとく。

永田夏来の報告では、若者が過ごす夏休みのイベントとして一般化している「夏フェス」について、女性を対象としたインタビュー調査結果を中心に報告する。特に夏フェスを語るコンテクストには、ロックならではの男性的な視点とかわいさに注目する女性的な視点の両方がある点を分析する。

上記の報告に関して、討論者の高馬京子から『kawaiiのアルケオロジー(仮)』（明石書店、近刊）の視点を踏まえて討議を行う。その後、〈カワイイ〉が一般化した現代日本社会のメディア文化についてフロア全体で広く議論し理解を深めていきたい。